

令和4年度あいちラーニング推進事業研究報告書【重点校】

学校番号 127
 学校名 愛知県立知立高等学校
 校長氏名 森藤 真言

研究責任者職・氏名	教諭・菊地 純弥	
研究テーマ	もっと学びたくなる授業を創ろう	
本年度の研究目標	(1) 総合学科の多様な学習の中で「主体的・対話的で深い学び」を推進し、さらに興味・関心を高める授業への改善を図る。 (2) 総合学科の多様な学習において、探究的な学習を推進する。 (3) (1)(2)のために、ICT機器を積極的に活用する。 (4) 評価の在り方を工夫する。	
研究の実施内容		
実施月日	内容	備考 (対象生徒等)
令和4年		
5月下旬	(1) 前期研究授業の準備(指導案作成、教科での検討)	社・数・体の教科 公開授業担当者
6月6日～17日	(2) 前期授業研究週間(研究授業の実施、参観、研究協議)	
6月21日	(3) 高等学校教育課学校訪問	
6月21日	(4) 第1回研究協議会(総合学科系列会)	系列会担当者
7月13日	(5) 第1回連絡協議会(知立東高校)	教務副主任
10月下旬	(6) 後期研究授業の準備(指導案作成、教科での検討)	公開授業担当者
11月11日	(7) 主管校視察(知立東高校の研究授業参観)	
11月7日～15日	(8) 後期授業研究週間(研究授業の実施、参観、研究協議)	社・数・体の教科
11月24日	(9) 第2回研究協議会(総合学科系列会)	系列会担当者
令和5年		
1月13日	(10) 授業実践報告書の提出(校内締切)	社・数・体の教科
1月18日	(11) 第2回連絡協議会(知立東高校)	教務主任
3月9日	(12) 現職研修会(研究成果の振り返り)、研究報告書提出	全職員
研究成果の評価及び普及・還元に関する実績		
1 地歴公民科の研究 ～考察をさせる新しい地歴公民科授業の在り方～ (1) 令和4年度の研究授業 ア 授業内容の要旨 単元の中まとめとして、これまでに学習した内容をもとに、近代化した日本と諸外国との関係を考察し自らの言葉で表現することを中心に実施した。 イ 工夫した点 (ア) ICTの活用 生徒の回答例を使い論述の書き方を考え、グループでの話し合いや意見のまとめにロイロノートを使用した。 (イ) R80の活用 「R80」を使用することで、感想文になってしまいがちな記述を、学習内容を正しく理解しているかを判断し、尚且つ自分の言葉で表現をさせることができる。		

ウ 評価の方法

生徒の観察によりグループワークへの参加状況や意欲を把握する（主体的に学習に取り組む態度）。「R80」を使い、学習内容が正しく理解できている（知識・技能）。「R80」に自分の考えが書けている、正しい表現ができている（思考・判断・表現）。

エ 授業実践を踏まえた今後の課題

グループワークでは意見が出せなくなってしまう生徒がいたため、グループワークでの話し合いの前に個人で考える時間を設定し、その後にグループワークを行った方が良かった。より議論が活性化し深い考察になる。またグループワークを入れることで進度が遅くなることが考えられるため、効率の良い方法を考えていく必要がある。

(2) 令和4年度の地歴公民科の取組（教科としての目標や実践していること）

知識を教える授業というスタイルが、新課程になり考察をする授業づくりが必要となった。共通テストでも史料や地図問題が頻出するようになり史料問題等への対策が必要となっている。今まで通りの知識の定着をさせながら発展した考察ができるよう取り組んでいる。

(3) 来年度の課題

ア 「もっと学びたくなる授業」（生徒の意欲・関心を高める授業）の創出に向けて

答えのない問題を考察し「どうしてこうなったのだろう」と考えることの楽しさを伝えたい。そのためにも積極的に意見を出し合える環境づくり、相手の考えを否定せずに意見交換をする方法を、授業を通して学ばせていく。

イ 「深い学び」（探究的な学習）の充実に向けて

歴史的考察をするためには、その背景にある事象を知識として持っている必要がある。事実としての歴史を伝え知識の定着を図り、その上で「何故？」という問を考える力を身に付けさせたい。確認テストによる知識の定着と「R80」を用いた歴史的考察を単元の中で交互に行うことでより深い学びにしていく。

ウ 観点別評価の充実に向けて

単元ごとに「確認テスト」や「論述プリント」「R80」「振り返りシート」を行うことで3観点を偏りなく評価していきたい。

2 数学科の研究 ～日常生活や社会の事象を数学的に捉える授業を目指して～

(1) 令和4年度の研究授業

ア 授業内容の要旨（詳細は指導案を参照）

教科書一辺倒、定理や公式、性質ありきの授業展開を改善するため、日常生活や社会の事象を数学的に捉えることで、数学を学ぶことの意義を感じさせる授業を実施した。

イ 工夫した点

(ア) ICTの活用

- ① PowerPoint を使用し、月食や日食について解説した。
- ② 月と太陽の位置関係をワークシートにできるだけ多く書かせた後、ロイロノートを使用し、他の生徒の記載内容を共有した。
- ③ GeoGebra を使用し、2つの円の位置関係について考察させた。

(イ) 主体的で・対話的で深い学びの実現に向けた工夫

- ① ワークシートとロイロノートを用いて、他の生徒の記載内容を共有させることで、生徒がより自由に考察できるようにした。
- ② GeoGebra を使用し、2つの円の位置関係を視覚的に捉え、月と太陽との位置関係を2円の位置関係に数学化し、位置関係の関係式を考察できるようにした。

ウ 評価の方法

ワークシートの記載内容と教科書の練習問題を実際に解かせてみた結果を総合的に判断して評価した。

エ 授業実践を踏まえた今後の課題

ネットワークに不具合が生じたり、タブレットの充電がなかったりした場合のリスクマネジメントをしっかりとしておくこと、生徒が主体的に考え、性質を導くことができるようなワーク

シートの工夫、グループ活動を取り入れるなどの工夫が今後の課題である。

(2) 令和4年度の数学科の取組

教科会ではOneNoteを使って連絡や協議等をし、授業では、多くの教員がロイロノートで課題提出や問題演習のために使用するなど、ICTを積極的に導入しようとしている。

(3) 来年度の課題

ア 「もっと学びたくなる授業」の創出へ向けて

教科書の内容が日常生活や社会の中でどのように役立っているのか、日常生活や社会の事象を数学的に表現するとどうなるのかを生徒に考えさせる機会を増やしていきたい。

イ 「深い学び」の充実に向けて

単元によって、生徒がじっくり考える時間や生徒にまかせる場面を増やすために、指導方法等を工夫していきたい。

ウ 観点別評価の充実に向けて

今までは課題と考査の点数で評価の大半を占めてきたが、確認テストやワークシート、振り返りシートを評価に入れることで、生徒をいろいろな方向で評価することができるようになった。そのこともあり、不振者に該当する生徒の人数が減った。今後は、授業態度やグループワーク等の授業の様子についての評価についても明確にしていきたい。

3 保健体育科の研究 ～より良い授業を目指して～

(1) 令和4年度の研究授業

ア 授業内容の趣旨

2年生のバドミントンでは、基本的なルールや技能の習得を中心に行ってきた。今回の3年生のバドミントンでは、戦略を立てながら試合ができることを重視した。

イ 工夫した点

(ア) ICTの活用

試合風景を動画撮影し、試合の展開を考察できるようにした。自分の動きや戦術を客観的に捉えるように促した。また、プロの試合動画を見せて自分たちとの比較をさせた。

(イ) 振り返りノート（主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫など）

自分の試合動画を見て、振り返りノートへ反省を記入させた。また、グループの仲間からよかった点や改善点を聞き、次の試合に活かせるようにした。

ウ 評価の方法

相手側のコートに守備のいない空間に緩急や高低などの変化をつけてシャトルを打ち返すことができる（技能）。自分の試合動画を仲間と確認して改善につなげ、作戦を考えることができる（思考力、判断力、表現力）。仲間の意見を大切に、課題解決に取り組むことができる（学びに向かう力、人間性等）。

エ 授業実践を踏まえた今後の課題

学校にあるタブレット端末で動画撮影を行ったため、そのつど削除していた。今後は生徒用タブレットで撮影・保存していくことで、自分の変化を時系列で感じることができると考える。

(2) 令和4年度の保健体育科の取組（教科としての目標や実践していること）

全学年が連続性をもって技能を教えていくことができるようにする
どの教員であっても一定水準以上の技能を教えることのできる授業力
雨天の場合を活用して視聴覚教材などでの専門性をより高める

(3) 来年度の課題

ア 「もっと学びたくなる授業」（生徒の意欲・関心を高める授業）の創出に向けて「できた」から「もっとうまくなりたい」と思えるような技能の習得に向けたバリエーションのある練習や授業展開を行う。

全体を試合で楽しめる水準まで上げるための個々へのアプローチの仕方を工夫する。

イ 「深い学び」（探究的な学習）の充実に向けて

ICT機器を利用して自分の姿を記録で残すことや動画視聴を通じてトッププレーヤーやお

手本となる動きから学習を行う。また、両者を見比べて自身との違いを発見し、改善できる活動をより増やしていく。

ウ 観点別評価の充実に向けて

より生徒の話し合い活動やお互いの教え合い活動を積極的に取り入れていく。また、共有した内容をノートやプリントに書き残していくことで振り返りを充実させ、評価をより明確に行いやすくする。